

— 資 料 —

父親の養育行動が家庭での親子の身体活動に及ぼす影響  
— 子育て時間に注目して —

矢野 真理

How fathers' nurturing behaviour affects parent-child physical activity at home  
— focus on child care time —

Mari YANO

要 旨

本研究は、父親の養育行動が家庭での親子の身体活動に及ぼす影響について子育て時間に注目して検討することを目的とした。2022年9月、兵庫県A市の認定こども園に在籍する3歳以上児の保護者112名を対象としてWEB調査を実施した。父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群の間でそれぞれ平日と休日に分けて各種項目値を比較検討した。分析の結果、休日の父親の子育て時間1時間以上群は、1時間未満群より平日・休日の遊ぶ相手は「父親」、家庭で子どもと一緒にする活動として「絵本や本の読み聞かせをする」、「文字を読んだり、数を数えたりする」、父親の「健康度」や「生活満足度」、「運動嗜好性」が高い、父親母親ともに「親子運動遊びに興味がある」の回答割合が有意に高かった。父親の子育て時間が増加することにより、親子の身体活動や健康度、運動嗜好性が高まる可能性が示唆された。

キーワード：父親の養育行動、子育て時間、遊び、身体活動、子ども、家庭  
fathers' nurturing behaviour, child care time, play, physical activity,  
child, home

緒言

近年の新型コロナウイルス感染症の影響により生活様式は大きく変化した。人との接触が制限される状況が続いたことで、幼児期における子どもたちの身体活動・運動（からだを動かすことや遊び）の機会の減少が問題となっている。

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果<sup>1)</sup>において、体力合計点は令和元年度調査から連続して小・中学校の男女ともに低下していると報告されている。その原因として、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、マスク着用中の激しい運動の自粛などがあり、1週間の総運動時間がコロナ以前の水準には至っていないこと、肥満である児童生徒の増加、朝食欠食や睡眠不足、スクリーンタイム（平日1日あたりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機

等による映像の視聴時間)の増加など生活習慣の変化が考えられる。

また、幼児の運動促進のための取組を実施している教育委員会の割合は、政令指定都市を除き、低下したと報告されている。2012年文部科学省が策定した幼児期運動指針<sup>2)</sup>には、幼児期において遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、体力・運動能力の向上や健康的なからだの育成、意欲的なこころの育成、社会適応力の発達、認知的機能の発達など豊かな人生を送るための基盤づくりとなる様々な効果が期待できることが示されている。同指針<sup>2)</sup>では、毎日60分以上楽しく体を動かすことを勧めている。保育所保育指針<sup>3)</sup>には、健康の領域において「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。」とあり、これらを園生活の中で自然に身に付けていくことが大切であるとされている。生活様式が大きく変化した今、幼児期における子どもたちの身体活動の機会を確保するためには、園生活だけではなく、家庭においても身体活動や運動の機会を増やすことは重要であるといえる。

幼少期の子どもにとって、運動する機会の有無や体を動かすことの嗜好は、養育者の嗜好や意識に影響される傾向があることが報告されている<sup>4)</sup>。保護者が運動やスポーツが好きでそれらに対して理解があること、保護者が運動に親しむ習慣があることなどによって子どもも運動が好きになり、体を動かしてよく遊ぶということが知られている。保護者が意識して子どもと遊びを中心とした身体活動を楽しむことができる機会を作り、継続していくことで、子どもたちは体を動かして遊ぶことが好きになると考えられる。

一方、令和4年には、育児休業制度<sup>5)</sup>が導入され、父親の育児参加に対して社会の関心が高まっており、父親の育児への参加意欲も増加している<sup>6)</sup>。今後、父親の育児参加はさらに推奨されると考えられるが、父親が積極的に育児参加することによる影響について明らかにした研究は十分ではない。そこで本研究は、乳幼児を持つ父親に着目し、父親の養育行動が家庭での親子の身体活動に及ぼす影響について、子育て時間に注目して検討することを目的とした。

## 方法

### (1) 調査対象者と方法

2022年9月、兵庫県A市の認定こども園2施設の1歳児クラスから5歳児クラスに在籍する園児386名の保護者を対象にウェブ(グーグル社のフォーム)を用いて調査を実施し、二次元コードから回答してもらった。調査の前に研究の目的や方法について担当保育者に口頭と書面で説明を行った後、研究依頼書の配布を依頼した。調査対象者は、本研究に同意した178名(回収率46.1%)であった。なお、子どもの発育発達の相違による影響を除外するため、3歳以上児の保護者112名を解析対象者とした。

### (2) 調査項目

調査項目として、子どもに対しては、属性(年齢、性別、きょうだい数、出生順位)、健康度自己評価、保護者においては、属性(年齢、就業状況)、養育行動(家庭で子どもと一緒にする活動、子育て時間)、健康度自己評価、生活満足度、運動嗜好性、運動遊びへの興味、家庭での遊びについては、屋外の遊び、室内の遊び、遊ぶ場所、平日の遊ぶ相手、休日の遊ぶ相

手、外遊びの時間、家庭にあるものを使用する時間を選択した。

### 1) 子ども・保護者の共通項目

健康度自己評価は、「1非常に健康である」、「2まあ健康な方だと思う」、「3あまり健康でない」、「4健康でない」の4段階で回答を求め、1、2を選んだものを「健康である」として人数と割合を示した。

### 2) 保護者に対する項目

保護者における養育行動については、2016年第5回幼児の生活アンケート<sup>7)</sup>を参考に質問を設定した。家庭で子どもと一緒にする活動は、「ご家庭でお子様と一緒に次のようなことをどれくらいしますか」と尋ね、「子どもと一緒に遊ぶ」、「家族みんなで食事をする（朝食）」、「家族みんなで食事をする（夕食）」、「子どもとお風呂に入る」、「子どもと一緒に1日の振り返りをする（話をする）」、「絵本や本の読み聞かせをする」、「子どもと一緒に調理をする」、「子どもとテレビやDVDを見る」、「子どもと一緒に文字を読んだり、数を数えたりする」、「子どもと絵を描いたり、粘土や折り紙で遊んだりする」の10項目について「ほとんど毎日」、「週に3～4日」、「週に1～2日」、「月に1～3日」、「ほとんどない」の中からそれぞれ1つを選択してもらい、1週間に1日以上していると答えた者の人数と割合を示した。子育て時間は、対象の子どもと一緒に過ごす時間（睡眠時間は除く）とし、平日と休日に分けて1日あたりの平均時間を尋ね、「0分」、「1時間未満」、「1～2時間未満」、「2～4時間未満」、「4時間以上」の中からそれぞれ1つを選択してもらい、1時間以上と回答した人数と割合を示した。

生活満足度は、内閣府の満足度・生活の質に関する調査<sup>8)</sup>の項目を参考に「現在の生活に満足していますか」の問いに対して、「1とても満足している」、「2まあ満足している」、「3あまり満足していない」、「4全然満足していない」の4段階で回答を求め、1、2を選んだものを「満足している」として人数と割合を示した。

### 3) 家庭での遊びに対する項目

家庭での遊びについては、2016年第5回幼児の生活アンケート<sup>7)</sup>の調査項目を参考に質問を設定した。屋外の遊びは、「屋外でどのような遊びをよくしていますか」と尋ね、「公園の遊具（すべり台、ブランコなど）を使った遊び」、「砂場などでのどろんこ遊び」、「ボールを使った遊び（サッカーや野球など）」、「自転車、一輪車、三輪車などを使った遊び」、「おにごっこ、缶けりなどの遊び」、「なわとび、ゴムとび」、「石ころや木の枝など自然のものを使った遊び」、「その他」の8項目について上位3つを選択してもらい、それぞれ人数と割合を示した。室内の遊びは、「室内でどのような遊びをよくしていますか」と尋ね、「テレビゲーム」、「携帯ゲーム」、「カードゲームやトランプなどを使った遊び」、「絵やマンガを描く」、「マンガや本（絵本）を読む」、「つみ木、ブロック」、「ジグソーパズル」、「ミニカー、プラモデルなどおもちゃを使った遊び」、「人形遊び、ままごとなどのごっこ遊び」、「その他」の10項目について上位3つを選択してもらい、それぞれ人数と割合を示した。遊ぶ場所については、「お子様はどこで遊ぶことが多いですか」と尋ね、「自宅」、「自宅の庭」、「友だちの家」、「近所の路地や道路」、「近所の空き地や公園」、「団地内のあそび場」、「学校、幼稚園、保育園の運動場」、「その他」の8項

目について多いもの2つを選択してもらい、それぞれ人数と割合を示した。遊ぶ相手は、「平日（幼稚園・保育園以外で）遊ぶときは誰と一緒にいることが多いですか」、「休日遊ぶときは誰と一緒にいることが多いですか」の問いに対して「父親」、「母親」、「祖母」、「祖父」、「きょうだい」、「友達」、「親戚」、「お子様ひとり」、「その他」の9項目について当てはまるものすべてを選択してもらい、それぞれ人数と割合を示した。外遊びの時間は、「お子様は、平日（幼稚園、保育園以外で）は1日あたりどれくらいの時間、外で遊びますか」、「お子様は、休日は1日あたりどれくらいの時間、外で遊びますか」（外遊び：お散歩を含む）と尋ね、「0分」、「1時間未満」、「1～2時間未満」、「2～4時間未満」、「4時間以上」の中からそれぞれ1つを選択してもらい、1時間以上遊ぶと回答した人数と割合を示した。家庭にあるものを使用する時間については、「お子様は次のものを休日（1日あたり）どれくらいの時間、見たり使ったりしていますか」と尋ね、「テレビやDVD」、「絵本」、「図鑑（お子様向け）」、「スマートフォン、タブレット端末（ipad など）」、「ゲーム機（Wii、DSやPSP など）」、「知育玩具（つみ木、ブロックなど）」、「楽器（ピアノ、エレクトーンなど）」、「ワーク（お子様向けのワークや学習用ドリルなど）」の8項目について「0分（家にないを含む）」、「1時間未満」、「1～2時間未満」、「2～4時間未満」、「4時間以上」の中からそれぞれ1つを選択してもらい、1時間以上見たり使ったりしていると回答した人数と割合を示した。

### (3) 解析方法

父親の子育て時間が家庭での遊びや親子の身体活動に及ぼす影響を明らかにするために、平日の父親の子育て時間が1時間以上群と1時間未満群、休日の父親の子育て時間が1時間以上群と1時間未満群の間で各種項目値を比較検討した。統計学的方法として、 $\chi^2$ 検定ならびにFisherの直接確率をそれぞれ用いた。

統計学的有意水準は5%未満に設定し、データの分析にはIBM SPSS Statistics 23を用いた。

### (4) 倫理的配慮

本研究は神戸女子大学・神戸女子短期大学研究倫理委員会の承認を受けて実施した（受付番号2021-41-2）。対象者の子どもが在籍する認定子ども園の各園長に本研究の趣旨について口頭と書面による説明を行い、調査の承諾を得た。対象者には、研究依頼書を配布し、研究の趣旨と個人情報の厳守、研究協力の任意性と辞退の自由について説明した。ウェブを用いた調査に回答することにより調査協力への同意を得たものとした。

## 研究結果

### (1) 子どもの属性

子どもの属性は表1に示すとおりである。性別をみると男児63名（56.3%）、女児49名（43.8%）であった。本人を含むきょうだい数は多いものより2人が67名（59.8%）、3人が23名（20.5%）であり、出生順位は多いものより1番目が68名（60.7%）、2番目36名（32.1%）であった。

表1 子どもの属性

年齢	3歳児期 (3歳6か月～4歳5か月)	27	(24.1)
	4歳児期 (4歳6か月～5歳5か月)	46	(41.1)
	5歳児期 (5歳6か月～6歳5か月)	39	(34.8)
性別	男児	63	(56.3)
	女児	49	(43.8)
きょうだい数 <sup>1)</sup>	1人	20	(17.9)
	2人	67	(59.8)
	3人	23	(20.5)
	4人	1	(0.9)
	5人以上	1	(0.9)
出生順位	1番目	68	(60.7)
	2番目	36	(32.1)
	3番目	6	(5.4)
	4番目	2	(1.8)

n=112、カテゴリ：n (%)

<sup>1)</sup>：きょうだい数は本人を含む。

表2 保護者の属性

		父親	母親
年齢 (歳)		38.3±6.0	36.5±5.2
年代	20代	6 (5.4)	12 (10.7)
	30代前半	20 (17.9)	22 (19.6)
	30代後半	36 (32.1)	43 (38.4)
	40代以上	40 (35.7)	30 (26.8)
	いない	1 (0.9)	0 (0.0)
就業状況	フルタイム	100 (89.3)	44 (39.3)
	パート	0 (0.0)	44 (39.3)
	自営、在宅	7 (6.3)	6 (5.4)
	専業主婦	0 (0.0)	10 (8.9)
	産休、育休	0 (0.0)	6 (5.4)
	その他	5 (4.5)	2 (1.8)

アンケート回答者：父親7名 (6.3%)、母親105名 (93.8%)

カテゴリ：n (%) 欠損値がある場合は除外しているため合計数が異なる場合がある。

## (2) 保護者の属性

保護者の属性を表2に示した。解析対象者は112名であり、アンケート回答者は、父親7名 (6.3%)、母親105名 (93.8%)であった。平均年齢は、父親が38.3±6.0歳、母親は36.5±5.2歳であった。就業状況について父親はフルタイムが100名 (89.3%)、母親はフルタイムとパートがそれぞれ44名 (39.3%)で同率であった。

## (3) 平日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群における各種調査項目値の比較

平日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群の間で各回答割合を比較検討した結果は表3に示した。平日の父親の子育て時間1時間以上群 (79名)は、1時間未満群 (33名)より遊ぶ場所を「学校、幼稚園、保育園の運動場」(p<0.05)、平日の遊ぶ相手は「父親」(p<

表3 平日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群における各種調査項目値の比較

項目	平日父親の子育て時間		検定	
	1時間以上群 n=79	1時間未満群 n=33		
家庭での遊び				
遊ぶ場所	自宅	71 (89.9)	32 (97.0)	n.s.
	自宅の庭	15 (19.0)	9 (27.3)	n.s.
	友だちの家	0 (0.0)	0 (0.0)	n.s.
	近所の路地や道路	3 (3.8)	3 (9.1)	n.s.
	近所の空き地や公園	29 (36.7)	12 (36.4)	n.s.
	団地内のあそび場	1 (1.3)	0 (0.0)	n.s.
	学校、幼稚園、保育園の運動場	29 (36.7)	5 (15.2)	*
	その他	4 (5.1)	2 (6.1)	n.s.
遊ぶ相手 (平日)	父親	29 (36.7)	2 (6.1)	***
	母親	64 (81.0)	25 (75.8)	n.s.
	祖母	22 (27.8)	8 (24.2)	n.s.
	祖父	9 (11.4)	2 (6.1)	n.s.
	きょうだい	52 (65.8)	23 (69.7)	n.s.
	友だち	10 (12.7)	5 (15.2)	n.s.
	親戚	6 (7.6)	8 (24.2)	*
	ひとり	6 (7.6)	3 (9.1)	n.s.
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	n.s.
遊ぶ相手 (休日)	父親	67 (84.8)	16 (48.5)	***
	母親	74 (93.7)	27 (81.8)	n.s.
	祖母	26 (32.9)	11 (33.3)	n.s.
	祖父	15 (19.0)	4 (12.1)	n.s.
	きょうだい	51 (64.6)	24 (72.7)	n.s.
	友だち	15 (19.0)	3 (9.1)	n.s.
	親戚	11 (13.9)	8 (24.2)	n.s.
	ひとり	5 (6.3)	4 (12.1)	n.s.
	その他	1 (1.3)	0 (0.0)	n.s.
養育行動				
家庭で子どもと 一緒にする活動 (週1日以上)	一緒に遊ぶ	78 (98.7)	31 (93.9)	n.s.
	家族みんなで朝食を食べる	60 (75.9)	31 (93.9)	*
	家族みんなで夕食を食べる	77 (97.5)	33 (100.0)	n.s.
	お風呂に入る	79 (100.0)	33 (100.0)	n.s.
	一日の振り返り(話)をする	76 (96.2)	33 (100.0)	n.s.
	絵本の読み聞かせをする	62 (78.5)	23 (69.7)	n.s.
	調理をする	29 (36.7)	16 (48.5)	n.s.
	テレビ、DVDを見る	77 (97.5)	33 (100.0)	n.s.
	文字を読む、数を数える	73 (92.4)	28 (84.8)	n.s.
	絵を描く、粘土や折り紙で遊ぶ	62 (78.5)	23 (69.7)	n.s.
子育て時間 (父親)	平日 1時間以上			
	休日 1時間以上	79 (100.0)	20 (60.6)	***
健康度自己評価 (健康である)	父親	76 (96.2)	27 (81.8)	*
	母親	71 (89.9)	32 (97.0)	n.s.
生活満足度 (満足している)	父親	76 (96.2)	29 (87.9)	n.s.
	母親	73 (92.4)	31 (93.9)	n.s.
運動嗜好性 (運動が好きである)	父親	66 (83.5)	24 (72.7)	n.s.
	母親	56 (70.9)	22 (66.7)	n.s.
親子運動遊びに 興味あり	父親	73 (92.4)	23 (69.7)	**
	母親	73 (92.4)	26 (78.8)	*

カテゴリ：n (%)      \* : p < 0.05      \*\* : p < 0.01      \*\*\* : p < 0.001

検定：平日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群の比較は、 $\chi^2$ 検定、またはFisherの直接確率検定を用いた。

0.001)、休日の遊ぶ相手を「父親」( $p < 0.001$ )と回答した者の割合が有意に高く、平日の遊ぶ相手に「親戚」( $p < 0.05$ )と回答した者の割合は有意に低かった。家庭で子どもと一緒にする活動において「週1日以上家族みんなで朝食を食べる」( $p < 0.05$ )と回答した割合は、平日の父親の子育て時間1時間未満群のほうが有意に高かった。また平日の父親の子育て時間1時間以上群は、父親の子育て時間について「休日1時間以上」( $p < 0.001$ )、健康度自己評価において「健康である(父親)」( $p < 0.05$ )、「親子で行う運動遊びに興味がある(父親)」( $p < 0.01$ )、「親子で行う運動遊びに興味がある(母親)」( $p < 0.05$ )の項目において回答割合が有意に高かった。これら以外の各種調査項目において、2群間に有意な差は見られなかった。

#### (4) 休日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群における各種調査項目値の比較

休日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群の間で各回答割合を比較検討した結果は表4に示した。休日の父親の子育て時間1時間以上群(99名)は、1時間未満群(13名)より平日の遊び相手が「父親」( $p < 0.05$ )、休日の遊び相手を「父親」( $p < 0.001$ )と回答した者の割合は有意に高く、平日の遊び相手として「親戚」( $p < 0.05$ )、休日の遊び相手を「ひとり」( $p < 0.01$ )と回答した者の割合は有意に低かった。さらに休日の父親の子育て時間1時間以上群は、家庭で子どもと一緒にする活動において「週1日以上絵本や本の読み聞かせをする」( $p < 0.01$ )、「週1日以上子どもと一緒に文字を読んだり、数を数えたりする」( $p < 0.05$ )、健康度自己評価において「健康である(父親)」、「現在の生活に満足している(父親)」(各 $p < 0.05$ )、「運動が好きである(父親)」、「親子で行う運動遊びに興味がある(父親)」(各 $p < 0.001$ )、「親子で行う運動遊びに興味がある(母親)」( $p < 0.05$ )の項目において回答割合が有意に高かった。また休日の父親の子育て時間1時間以上群は、父親の子育て時間について「平日1時間以上」( $p < 0.001$ )と回答した者の割合も有意に高かった。これら以外の各種調査項目において、2群間に有意な差は見られなかった。

#### 考察

本研究は、父親の養育行動が家庭での親子の身体活動に及ぼす影響について子育て時間に注目して検討することを目的とした。

平日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群の間で各種項目値を比較したところ、平日の父親の子育て時間1時間以上群は1時間未満群より、遊ぶ場所を「学校、幼稚園、保育園の運動場」、平日・休日の遊ぶ相手はどちらも「父親」の回答割合が有意に高く、平日の遊び相手として「親戚」の回答割合は有意に低かった。今回の調査では、家族形態を尋ねていないため不明であるが、平日の父親の子育て時間1時間以上群は、遊ぶ場所を「自宅」、遊ぶ相手として「母親」、「きょうだい」と回答した者も多いことから家族での活動が多いと推察される。子ども園の園長に子どもの降園後の様子を聞いたところ、平日は習い事などがあり友達と遊ぶ時間も少なく、保護者の仕事の関係で時間に余裕がない子どもが多いとのことであった。これらのことも遊ぶ場所や遊ぶ相手に関連していると考えられる。また、父親の子育て時間は「休日1時間以上」、健康度自己評価において「健康である(父親)」、父親母親ともに「親子で

表4 休日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群における各種調査項目値の比較

項目	休日父親の子育て時間		検定	
	1時間以上群 n=99	1時間未満群 n=13		
家庭での遊び				
遊ぶ場所	自宅	91 (91.9)	12 (92.3)	n.s.
	自宅の庭	21 (21.2)	3 (23.1)	n.s.
	友だちの家	0 (0.0)	0 (0.0)	n.s.
	近所の路地や道路	4 (4.0)	2 (15.4)	n.s.
	近所の空き地や公園	36 (36.4)	5 (38.5)	n.s.
	団地内のあそび場	1 (1.0)	0 (0.0)	n.s.
	学校、幼稚園、保育園の運動場	33 (33.3)	1 (7.7)	n.s.
	その他	4 (4.0)	2 (15.4)	n.s.
遊ぶ相手 (平日)	父親	31 (31.3)	0 (0.0)	*
	母親	79 (79.8)	10 (76.9)	n.s.
	祖母	25 (25.3)	5 (38.5)	n.s.
	祖父	10 (10.1)	1 (7.7)	n.s.
	きょうだい	69 (69.7)	6 (46.2)	n.s.
	友だち	12 (12.1)	3 (23.1)	n.s.
	親戚	9 (9.1)	5 (38.5)	*
	ひとり	6 (6.1)	3 (23.1)	n.s.
	その他	0 (0.0)	0 (0.0)	n.s.
遊ぶ相手 (休日)	父親	83 (83.8)	0 (0.0)	***
	母親	89 (89.9)	12 (92.3)	n.s.
	祖母	30 (30.3)	7 (53.8)	n.s.
	祖父	17 (17.2)	2 (15.4)	n.s.
	きょうだい	68 (68.7)	7 (53.8)	n.s.
	友だち	15 (15.2)	3 (23.1)	n.s.
	親戚	15 (15.2)	4 (30.8)	n.s.
	ひとり	5 (5.1)	4 (30.8)	**
	その他	1 (1.0)	0 (0.0)	n.s.
養育行動				
家庭で子どもと 一緒にする活動 (週1日以上)	一緒に遊ぶ	97 (98.0)	12 (92.3)	n.s.
	家族みんなで朝食を食べる	80 (80.8)	11 (84.6)	n.s.
	家族みんなで夕食を食べる	97 (98.0)	13 (100.0)	n.s.
	お風呂に入る	99 (100.0)	13 (100.0)	n.s.
	一日の振り返り(話)をする	96 (97.0)	13 (100.0)	n.s.
	絵本の読み聞かせをする	80 (80.8)	5 (38.5)	**
	調理をする	39 (39.4)	6 (46.2)	n.s.
	テレビ、DVDを見る	97 (98.0)	13 (100.0)	n.s.
	文字を読む、数を数える	92 (92.9)	9 (69.2)	*
	絵を描く、粘土や折り紙で遊ぶ	76 (76.8)	9 (69.2)	n.s.
子育て時間 (父親)	平日 1時間以上	79 (79.8)	0 (0.0)	***
	休日 1時間以上			
健康度自己評価 (健康である)	父親	94 (94.9)	9 (69.2)	*
	母親	90 (90.9)	13 (100.0)	n.s.
生活満足度 (満足している)	父親	95 (96.0)	10 (76.9)	*
	母親	92 (92.9)	12 (92.3)	n.s.
運動嗜好性 (運動が好きである)	父親	84 (84.8)	6 (46.2)	***
	母親	70 (70.7)	8 (61.5)	n.s.
親子運動遊びに 興味あり	父親	90 (90.9)	6 (46.2)	***
	母親	90 (90.9)	9 (69.2)	*

カテゴリ：n (%) \* : p < 0.05 \*\* : p < 0.01 \*\*\* : p < 0.001

検定：休日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群の比較は、 $\chi^2$ 検定、またはFisherの直接確率検定を用いた。



行う運動遊びに興味がある」の回答割合が有意に高かった。本研究において子育て時間は、子どもと一緒に過ごす時間（睡眠時間は除く）として質問している。このことから平日の父親の子育て時間1時間以上群は、休日も子どもと一緒に過ごす時間が長い、父親の健康度が高く、父親と母親がともに親子運動遊びに興味を持っていることが示唆された。一方、家庭で子どもと一緒にする活動に関しては、「週1日以上家族みんなで朝食を食べる」ことが少なかった。「週1日以上家族みんなで夕食を食べる」と回答した者は多く、有意差はないが、父親の勤務状況が関係していると考えられる。

休日の父親の子育て時間1時間以上群と1時間未満群の間で各種項目値を比較したところ、休日の父親の子育て時間1時間以上群は1時間未満群より、遊ぶ相手において平日に「親戚」、休日に「ひとり」の回答割合が有意に低く、平日・休日の遊び相手はどちらも「父親」、父親の子育て時間が「平日1時間以上」の回答割合が有意に高かった。休日の父親の子育て時間1時間以上群においても、平日の父親の子育て時間1時間以上群と同様に遊ぶ相手は「母親」、「きょうだい」と回答した者も多いことから、家族での活動が多く、父親とよく遊び、父親は子どもと一緒に過ごす時間が長いことが示唆された。家庭で子どもと一緒にする活動に関しては、「週1日以上絵本や本の読み聞かせをする」、「週1日以上子どもと一緒に文字を読んだり、数を数えたりする」の回答割合が有意に高く、休日の父親の子育て時間1時間未満群と比較して、1時間以上群のほうが家庭で一緒にする活動は多いことが示唆された。また、休日の父親の子育て時間1時間以上群は、父親の健康度、生活満足度、運動嗜好性が高く、父親と母親がともに親子運動遊びに興味を持っていることがわかった。

鈴木ら<sup>4)</sup>は、幼少期の子どもにとって、運動する機会の有無や体を動かすことの嗜好は、養育者の嗜好や意識に影響される傾向があると述べている。休日の父親の子育て時間1時間以上群は、父親と母親がともに親子運動遊びに興味があり、父親は運動が好きであることから子どもも体を動かしてよく遊び、運動が好きになると推察される。また、高木ら<sup>9)</sup>は、父親の健康度が高いと育児を肯定的に捉え、夫婦関係の満足度も高いと報告している。池田ら<sup>10)</sup>は、夫のサポートは、母親にとって精神的な支えとなると述べている。以上のことから父親の子育て時間の増加は、母親の精神的な健康度へとつながり、それは父親よりも子育て時間の長い母親から子どもにも伝わると考えられる。子どもの健康な心身の発育発達のためには体を動かして遊ぶことが必要であり<sup>3)</sup>、幼児期には周りに大人がいて一緒に遊ぶことが大切である。父親の子育て時間が増加することにより、親子の身体活動や健康度、子どもの運動嗜好性が高まる可能性が示唆された。

今後、ますます父親の育児参加は推奨されると考えられる。しかし、2023年3月に0～6歳（未就学児）の第一子をもつ母親・父親を対象に実施したベネッセ教育総合研究所の調査<sup>11)</sup>では、父親と母親の家事・子育てについて「妻の就業の有無にかかわらず、家事・子育ては、夫と妻が同等にするほうがよいと思いますか」の質問に対して母親・父親共に8割前後が「よいと思う」と回答しているが、その半数以上は「よいと思うが、家事・子育てを夫と妻が同等にするのは難しい」と回答している。現状において父親の育児参加の意向は増加しているが<sup>6)</sup>、時間は十分ではないといえる。子どもの健康な心身の発育発達のために、また子ども自身が体

を動かして遊ぶことが好きになるために、平日は子どもとの時間を持つことが難しい父親も休日に子どもと遊びを中心とした身体活動を楽しむことができる機会を作り、子どもと一緒に過ごす時間を増やす、それを継続していくことが必要であると考えます。

## 結語

本研究は、父親の養育行動が家庭での親子の身体活動に及ぼす影響について子育て時間に注目して検討することを目的とした。休日の父親の子育て時間1時間以上群は、1時間未満群より子どもとよく遊ぶ、家庭で子どもと一緒にする活動として「絵本の読み聞かせをする」、「文字を読んだり、数を数えたりする」の回答割合が高い、また、父親自身の健康度や生活満足度、運動嗜好性が高く、父親母親ともに親子で行う運動遊びに興味を持っていることがわかった。先行研究<sup>4)</sup>では、幼少期の子どもにとって、運動する機会の有無や体を動かすことの嗜好は、養育者の嗜好や意識に影響される傾向があると報告されている。これらのことから父親と一緒に過ごす時間が長い子どもは、体を動かしてよく遊び、運動が好きになると考えられる。父親の子育て時間（子どもと一緒に過ごす時間）が増加することにより、親子の身体活動や健康度、子どもの運動嗜好性が高まる可能性が示唆された。

本研究は2022年度神戸女子大学・神戸女子短期大学の教育・研究助成（No. K2022-21）を受けて実施した。

## 謝辞

本研究の実施に際してご協力していただいた対象者の皆様、および認定こども園の教職員の皆様に心より感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) スポーツ庁（2022）令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果. 1-12.  
[https://www.mext.go.jp/sports/content/20221223-spt\\_sseisaku02-000026462\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/sports/content/20221223-spt_sseisaku02-000026462_2.pdf)（情報取得 2023/1/4）
- 2) 文部科学省（2012）幼児期運動指針  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/undousisin/1319771.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319771.htm)（情報取得 2022/12/25）
- 3) 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領. 株式会社チャイルド本社
- 4) 鈴木康弘・江波諄子・木村由希・大津美紀（2008）保護者の養育力エンパワーメントに関する研究① 保育実践に基づく情報提供が保護者の養育力に与える影響について. 常磐短期大学研究紀要, 37, 52-58.
- 5) 厚生労働省（2022）子ども・子育て 育児・介護休業法について  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000130583.html>（情報取得 2023/10/7）
- 6) ベネッセ（2023）たまひよ妊娠・出産白書 2023.2-1.2-9.  
<https://st.benesse.ne.jp/press/content/?id=146309>（情報取得 2023/10/7）
- 7) ベネッセ（2016）第5回幼児の生活アンケートレポート [2016年]  
<https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4949>（情報取得 2022/12/25）

- 8) 内閣府 (2021) 満足度・生活の質に関する調査報告書 2021  
<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/pdf/summary.pdf> (情報取得 2022/12/25)
- 9) 高木悦子・小崎恭弘 (2021) 育児に積極的に関わる父親の心身の健康度に関連する要因. 母性衛生, 62(2), 301-308.
- 10) 池田雄二郎・佐伯和子 (2018) 父親の親役割に対する母親の満足感と関連する要因—未就学児をもつ親に着目して—. 日本公衆衛生看護学会誌, 7(3), 119-126.
- 11) ベネッセ教育総合研究所 (2023) 「乳幼児の保護者のライフキャリアと子育てに関する調査」  
[https://blog.benesse.ne.jp/bh/ja/news/education/2023/08/24\\_6000.html](https://blog.benesse.ne.jp/bh/ja/news/education/2023/08/24_6000.html) (情報取得 2023/10/7)